

2015年5月19日江戸川バスティン研究会月例会に、上総治子先生、宮本聖子先生にお越しいただきました。

私達江戸川バスティン研究会は、2012年1月～グリーンパレスにて月例の勉強会を行ってまいりました。ピアノパーティーA B C D, ピアノのおけいこ1 2 3 4と何度となく学び続けております。

その中で、会員よりどのようにしてバスティンが日本に幅広く導入されてきたのか、原点に立ち戻り知りたいと声が上がリ、先生方にお越しいただければと話が持ち上がり、今回、上総先生、宮本先生に貴重なお話を伺うことができました。



◎前半は宮本先生から、故福田靖子先生がアメリカから持ち帰ったバスティン教材についてお話を伺いました。

- ①全調を学ぶことができ、バッハの平均律へ繋ぐことができる教材。
- ②ポピュラー曲の演奏、合唱の伴奏に必要なコードネームの基となる英語の音名を、幼児期から学ぶことができる。
- ③リズム・メロディー・ハーモニーの3要素を、何度も蜘蛛の巣のように張り巡らせて発展させ、基礎力を付けていく。
- ④四分音符を「しーぶん」など、言葉と身体と音符、リズムを一体化させて覚える。
- ⑤たくさんの曲を常に弾き続ける。
- ⑥生徒も教師もたくさんの曲を学ぶことで進化し変化し続けることができる。

◎後半は、上総先生からバスティン教材の理念、実際のご指導方法のお話を伺いました。

目で楽譜が読めるように、心は感情、ブラインドタッチでピアノが弾けるように、ご指導なさってこられたそうです。

- ・ 感覚—知覚作用—概念形成—思考力—理論—表現
- ・ バスティンメソッドは、
音楽総合教育+ 全調メソッド
- ・ ゆっくり丁寧に進むことにより、早く伸びる力を身につけることができる。
大切なのは、その生徒が自信を付けること
- ・ グループレッスンの大切さ、実施されていた内容例
 - 1 セオリー3ページをこなす。
 - 2 初見アンサンブル4人程度
 - 3 今現在弾いていた曲の月おさらい（聴いている生徒さんは感想を書く）
 - 4 レコード鑑賞（オーケストラ曲など）
 - 5 音楽史などを追加しながら総合的な音楽力を培う。
 - 6 ゲームなども取り入れる



ピアノは総合的な学習であり、聴感覚の統治、鍵盤の完全な理解、リズムの感覚、知覚作用の認識（耳、目、口、頭、指、手、足、体）良い座り方を学ぶ、最高の習い事であると、上総先生の長年の指導歴から実感されている事をお話頂き、学ばせて頂きました。

最後に上総先生より、バスティン先生の語録を頂きました。「子供も一人の人間として接する。小さいからとて、子ども言葉は使わない。（音符の例など）」との言葉に同感されたとお言葉を頂きました。

勉強会終了後は、会場近くでランチ会を行い、先生方とコミュニケーションを取らせて頂き、とても充実したひと時を過ごすことができました。ありがとうございました。

R e p 江戸川バスティン研究会 板崎早苗